

算数科	教科担任 ○○ ○○
<p>児童の実態</p>	<p>3年生 数と計算、図形、測定の3領域で、全国平均正答率を15%程度下回り、基礎的な計算力や知識の定着が課題である。「かさの単位換算をする」、「直角三角形の作図」、「2つの4位数の大小を比べる」の問題の正答率が低く、補充を図っていく必要がある。かけ算九九は、9割の児童ができている。1割の児童は特定の九九を覚えきれていないことがあるが、●×▲が▲×●であること(交換法則)の理解はできている。</p> <p>4年生 数と計算の「1000-3位数」の筆算や図形の「角の大きさ」の問題の正答率が平均よりも20%近く下回り、基礎的な計算力に課題が見られる。意識調査からも、「文章や式、図や表などを組み合わせて自分の考えを説明したことがある」が全国平均よりも低く、問題場面から、図や式を関連させて考えることが苦手な児童が多い。</p> <p>5年生 数と計算の「上から2桁の概数で表す」の問題や図形の「面積が120cm²になる長方形を選ぶ」の問題の正答率が全国平均より10%~15%近く下回り、基礎的な計算力、図形の理解に課題が見られる。グラフや資料を読み取る問題では、文章や資料(表やグラフ)を読み取る力に課題が見られる。</p> <p>6年生 数と計算の「分数を小数で表す」問題や変化と関係の「自転車で進むのにかかった時間」の問題の正答率が全国平均より30%近く下回った。分数や小数の基礎的な四則計算の定着が課題とする児童が多い。文章問題や資料を読み取る場面では、図や表を活用して、考えることが難しい。</p>
<p>児童の実態を踏まえた 授業改善の取組</p>	<p>3年生 かけ算に課題のある児童に対しては、九九のマス目計算に取り組みさせる。加減法の筆算では、繰り返し上がり、繰り返し下がり、の仕組を繰り返し押しさえていく。単位換算の問題では、日常生活で触れる機会の少ない単位についても、授業の中で触れる時間を作っていく。図形の作図の学習では、コンパスや三角定規の使い方を確認する。手順については、ICTを活用しながら1つ1つのかき方を押しさえる。</p> <p>4年生 わり算の筆算の学習を通して、筆算の手順「立てる、かける、引く、おろす」を確実に押しさえさせる。九九を覚えきれていない児童に対しては、授業の中で九九のマス目計算に取り組みさせる。図形に関連する単元では、具体物を利用して児童の量感や立体感覚等を育む。また、数量の関係を式に表す問題では、文章に書かれている内容を正確に捉えられるようにして、式が表していることが何かを図や言葉を使って表現できるようにしていく。</p> <p>5年生 小数のかけ算とわり算を中心に計算問題を多く取り入れ、計算力を身に付けられるように取り組んでいく。図形に関する単元では、既習事項を確認し、操作活動や測定する活動をしながら、図形の感覚や量感を豊かにしていく。文章や資料を正確に読み取らせ、自分の考えを伝えたり、友達の考えを予想したりする活動を行い、数学的な思考力を高めていく。</p> <p>6年生 整数、小数、分数の基礎的な四則計算を系統的に押しさえながら、計算力の定着を図っていく。図形では、面積と体積を求める公式を基に問題を解く復習の時間を、授業内で設け、取り組んでいく。文章題や資料を読み取る課題を設定し、自分の考えを言葉で表現させる力を身に付けさせるとともに、文章や資料を正確に読み取れるようにする。</p>